



結核しずおか

36号 2015年4月30日

発行・編集

公益財団法人 静岡県結核予防会

〒420-0915

静岡市葵区南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizuoka@gaea.ocn.ne.jp

HP www.jata-shizuoka.org



巻頭言

本年4月1日に静岡県健康福祉部長に就任いたしました。関係機関の皆様におかれましては、結核対策を始め、県の健康福祉行政に御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

県では、県民の誰もが、いつでも、どこでも、安心して必要な保健医療サービスが受けられる体制を目指して、本年3月に、今後3年間を計画期間とする「第7次静岡県保健医療計画」を策定いたしました。

この計画に基づき救急医療体制の充実や質の高い患者本位の医療サービスの提供に向け、医療人材の確保や高度専門医療等の提供を進めていきます。また、生活習慣病の予防対策などに向けて、県民の健康づくりに取り組み、安心医療の提供と健康寿命日本一につつましてもしっかりと推進してまいります。

さて、本県における結核登録患者数は年々減少傾向にあり、患者の半数以上を占める高齢者への対応をはじめ、働き盛り世代における発見の遅れや、WHOが高まん延国としている国々からの外国人患者割合の増加など、問題が多様化・複雑化している状況にあります。

さらに、結核患者数の減少に伴い、診療や治療に精通した医療従事者及び医療機関が減少していることもあり、地域によっては、適切な医療体制の確保が困難になってきています。

このような状況の中、県内の予防業務の統一化、均質化を進めていき、地域の特性に配慮したきめ細かな対策を講じるなど、これまで以上に、結核患者服薬支援事業の推進と、根絶に向けた取組を強化してまいります。

今後も、結核に対する正しい知識の普及や医療従事者を対象とした研修会などを継続して実施することにより、早期発見や治療の完遂を目指してまいります。

県民の皆様が安心して健やかに暮らすことができる“ふじのくに”を実現するため、関係の皆様方には、引き続き、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



静岡県健康福祉部長 山口 重則

静岡県西部保健所管内における外国人結核患者の支援 ～外国人結核患者の支援の現状～

西部保健所管内の新登録外国人結核患者（平成22年～平成24年）の現状について分析し、今後の対策について検討したので報告します。

○ 西部保健所における結核発生状況

西部保健所の結核罹患率（表1）の推移は全国、静岡県の推移とほぼ同様。外国人患者発生割合は10.2%（国4.4%、静岡県7.3%）と国や県に比較し高い傾向にあり（表2）、県内でも外国人登録人口の多い当所管内の特徴と言えます。

表1 年次別罹患率推移

	H22	H23	H24	3年合計
国	18.2	17.7	16.7	17.5
静岡県	17.0	15.4	14.5	15.7
西部	19.9	16.3	19.4	18.5

表2 年次別外国人患者割合

	H22	H23	H24	3年合計
国	4.1%	4.1%	5.0%	4.4%
静岡県	7.2%	5.4%	9.8%	7.3%
西部	11.4%	4.7%	13.7%	10.2%

○ 西部保健所における外国人結核患者の特徴

- 患者の国籍は①フィリピン30%、②ブラジル26.7%、③インドネシア20%の順に全外国人患者の7～8割を占めており（図1）、外国人患者の約6割が言語の問題を抱えています。
- また、年齢別では日本人の約6割が70歳以上（平均年齢74.1歳）と高齢者が中心であるのに対し、外国人では約6割が40歳未満（平均年齢33.6歳）と活動性の高い若年者が中心となっています（図2）。
- 発生した日本人の8割が無職であるのに対し、外国人の6割が常用雇用者として企業等に属しています。
- 発病～初診までに2か月以上要している患者が、外国籍17%、日本国籍5%と、症状があっても受診の遅いケースが目立ちます。
- 言語の問題や文化の違いにより病気や治療に理解が得られにくい点がありますが、支援者との連携や丁寧な服薬支援を実施することで、治療完遂が可能です。

図1 国籍別割合

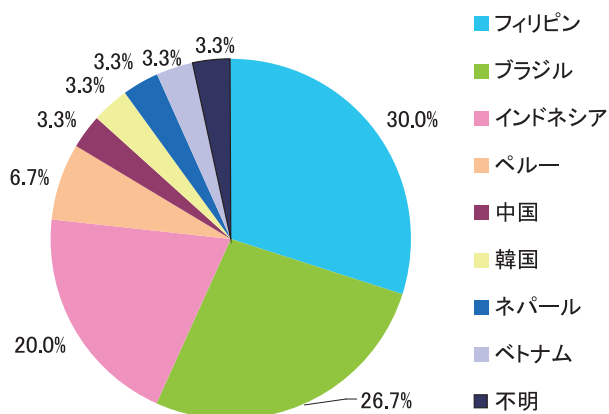
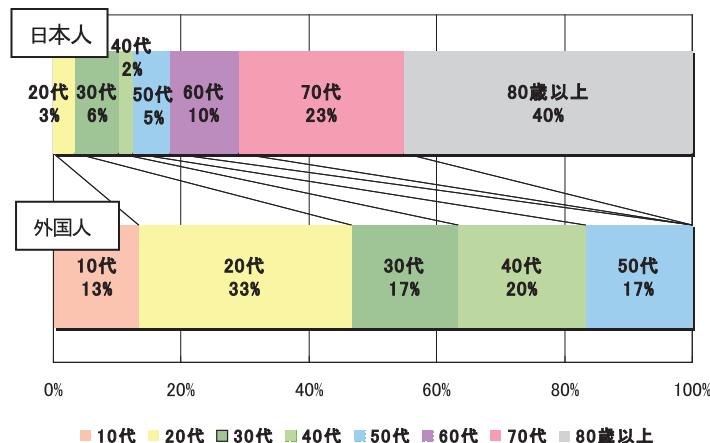


図2 年代別患者発生割合



○ 今後必要とされる対策

1 早期発見・結核発生予防策

- 外国人が属する企業等の集団に対し、結核の特性や有症状時の早期受診勧奨等、健康教育の実施。
- 健診を受ける機会のない外国人を対象とした健診機会の提供。

2 外国人患者支援策・・・治療中断を防止し、治療完遂を目指すために

- 言語別の翻訳資料を用いることや通訳者の確保等により、病気や治療への理解を促します。
- 患者発生時、保健師は患者及び支援者へ早期に介入し信頼関係を築いていきます。
- 企業や支援者の協力を得て、地域DOTS（服薬を見守り確認すること）の徹底を図ります。

うららかな春の風が心地よい海岸沿いの街、神奈川県茅ヶ崎へ。結核の歴史の息吹を感じてまいりました。

今回、訪れましたのは、『旧南湖院第一病舎』。

1899年、医師 高田畹安(たかたこうあん) により設立され、当時、病舎は14棟、病室は158室あり、『東洋一の結核療養所』と称せられました。現存する唯一の病棟は、福祉施設の一部で当時の面影を残していました。

当初、海辺のイオン、日光浴、静養が結核療養に良いとされる『理学療法サナトリウム』の考え方にに基づき建設され、その当時としては、蒸気を使った消毒機や、水洗トイレ、汚水処理施設、プールなどを備えるなど、設備の整った先進的な医療施設でした。

設立から1938年までの入院患者数は1万5千人、外来患者数は7万人に達し、その中には、国木田独歩(小説家)や八木重吉(詩人)などの数々の著名人もいました。

設立者の畹安は、医師であり、自身も肺結核を患い、当時の仕事を退職する経験をしました。全治療後、東京神田に東洋内科医院、茅ヶ崎に結核サナトリウム南湖院を設立し、一生を結核診療に捧げることとなります。また、敬虔なクリスチャンでもあったため、イエス・キリストを医王と称し、クリスマスの時期には医王祭とし、町をあげて祝い、茅ヶ崎と南湖院の名は知られることとなりました。

隔離による長期治療を受ける結核患者にとって、このように充実した施設で生活を送ることができるということは、たいへん有難く、勇気づけられたことであったとは思いますが、その一方で、『結核』=『不治の病』であった当時、多くの方が生と死の運命に直面し、ここで終焉を迎えた方もいたのだらうと思うと切なくなりました。

南湖院は、1945年2月、畹安が亡くなり、3か月後には海軍により全面接收、戦後は在日米軍の施設『キャンプ・チガサキ』となり、多くの施設がダンスホールや映画館に改造されましたが、この一番最初に建てられた第一病舎だけは奇跡的に残り、そこに生きた人々の生死のドラマを今に伝えております。

Viewpoint

富士山を背景とした第一病舎の風景は「関東の富士見百景」(国土交通省関東地方整備局主催)に選ばれています!

その当時も、結核患者の方々は、ここから見える富士山に元気をもらっていたのではないのでしょうか。残念ながら訪れた日は、春霞でその雄姿を拝むことは叶いませんでしたが、病舎前の桜がほころんでいてごみしました。静かで穏やかな空間でした。

総務課 近藤みのり



表彰のご紹介



平成26年度
静岡県結核予防婦人会長表彰

複十字シール募金成績優良団体

熱海支部 上多賀町内会 様
御殿場支部 印野地区 様
御殿場支部 高根地区 様

使用済み切手収集成績優良団体

伊豆市支部 様
沼津支部 様
駿東支部 様
裾野支部 様
御殿場支部 様
富士支部 様
富士宮支部 様
浜松市支部 様

みなさまのご支援ご協力に
心より感謝申し上げます

平成26年度
公益財団法人静岡県結核予防会表彰

結核予防事業功労者(個人)

鈴木政成 様
(浜松市保健所推薦)

結核予防功労者

前任本部役員

監事 佐野まする 様

前任支部長

裾野支部 土屋相子 様

富士支部 渡辺史江 様

前任支部役員

富士支部 村田 曉美 様

佐野 久 様

早瀬 久子 様

志賀 澄子 様

平成26年度

公益財団法人静岡県結核予防会講演会開催

主催 公益財団法人 静岡県結核予防会 後援 静岡県
日時 平成26年 11月10日(月) 14:00～16:00
場所 男女共同参画センター「あざれあ」4階 第一研修室



講演内容

「老健施設における感染症対策について」

講師 東京都健康長寿医療センター

顧問 稲松孝思 先生



この講演会は静岡県よりご後援をいただき各地域における疾病予防事業を支援するための一環として疾病の予防医療に関する専門知識を提供することを目的に年に一度の開催をしております。

今回は「老健施設における感染症対策」と題しまして、東京都健康長寿医療センターの稲松孝思先生のご講演となりました。



地球上の生命は長い歴史の中で相互に影響を与えながら進化し、今日の多様な生物が共存する生命圏を形成しています。このような生命観に立って、多様な生物の相互関係を捉えようとするのが今日の生態学なのですが、感染症とはヒトと微生物の多様な関係のうち、ヒトにとって不都合な生態学的な関係であるといえます。

このヒトにとって不都合な感染症は、社会環境の整備が不十分であった時代では、病原性の強い各種病原体による感染症が日本にも蔓延し、多くの方々が感染症のため死亡した歴史があります。

今日では、上下水道の整備など社会環境が改善され、栄養状態が改善され、ワクチン接種による予防が行われ、過去に見られたような形の感染症の流行は稀なものとなりました。

また、抗菌薬の進歩により、過去には治療困難であった各種細菌感染症が容易に治療できるようになりました。抗菌薬が使用できることにより、悪性腫瘍に対する強力な治療、脳や心臓などの大手術、移植手術など感染症を合併しやすい種々の治療が可能になり、多くの患者様が生き続けられるようになりました。

一方で、抗菌薬を使用し続けた結果、抗菌薬に耐性を持つ各種細菌が増えはじめているのも事実であり、人類と感染症との話は尽きない講演会の内容となりました。

高齢者にフォーカスして発症が予想される感染症対策についてのみならず、現在の世界や日本で問題とされている感染症や、デング熱やエボラウイルスのようなタイムリーな話題もあり、とても興味深く聴講させていただきました。

検診課 宮崎文考



健康レシピ



豆苗の肉巻き

豆苗は、エンドウ豆が発芽したものでほのかな香りと甘味がある緑黄色野菜です。

豆類に多く含まれるタンパク質やビタミンB群などの栄養と、葉もの野菜に多く含まれるβカロテンやビタミンCなどの栄養もあわせもつとてもバランスの良い食材です。何種もの抗酸化ビタミンを含み、相乗効果を発揮してくれるうれしいアンチエイジング野菜と言えます。

～レシピ～

1. 豆苗の根本を切り、生姜はせん切りにする
2. 豚肉1～2枚で豆苗と生姜のせん切りを巻き、全体に塩・こしょうを振る
3. フライパンにごま油をいれて、弱火で全体的に少しこげ目がつくくらいまでいためる
4. 中火にして焼き肉のタレを全体にかけタレが絡んだら弱火にし、少しタレが残るくらいで火を止める

～材料～

- ・豆苗
- ・豚薄切り肉
- ・生姜
- ・塩 こしょう
- ・焼き肉のタレ
- ・ごま油

2人分

- 1袋
- 200～300g
- 1かけ
- 適量
- 適量
- 適量



総合健診課 上西昌子



『スーパーレントゲン』って何のことでしょう…?

よく耳にする言葉にスーパーコンピュータがありますが…通常のレントゲンと何が違うのでしょうか?

某テレビ番組で、取り上げられていましたので、ご覧になりご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

開発者である東北大学多元物質科学研究所の百生敦（ももせあつし）教授は、このテレビ番組のプロデューサーによる『スーパーレントゲン』というネーミングには、少々納得いっていないようです。私自身は、『スーパー』という言葉は日本人に好まれるフレーズで、なかなか引きつけられる言葉ではあると思いますが。

現在、レントゲン=X線による撮影は、医療の分野で広く活用されています。当初は、レントゲン写真のみでしたが、バリウムによる胃の写真など造影剤による撮影も発展してきました。中でも、X線CT技術は、画期的な技術で、初期に比べかなり成熟されてきています。しかし、X線が通りやすい柔らかい軟部組織といわれる部分は、写真にすると見にくい場合があります。乳房を撮影するマンモグラフィもそのひとつ。『スーパーレントゲン』は、そこに着目し、初期の段階から現場の医師と連携し開発を行ってきました。乳がん診断や、さらには、手などのリウマチ診断も目的としています。

これまでと異なる画像処理で、軟部組織に優れた描出を可能にする『スーパーレントゲン』。この画像処理が新しい技術です。リウマチ診断装置は、患者さんの撮影症例を増やし、早期実用化に向けて開発が着々と進行中ですが、一方、乳がん診断装置については、患者さんへの運用はこれからとなります。まだまだ年月がかかると思われます。

今後、新しいX線器械が登場したら、この器械かもしれません。ネーミングは、変わっているかもしれません。

期待をこめて、待ちましょう。それまでは、現在のマンモグラフィによる乳がん検診を、ぜひ活用していただき、健康な毎日につなげていきましょう!!

検診課 鈴木貞子

平成26年度

東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会開催

日時・平成26年11月27日(木) 13時15分から	主催 東海北陸地区結核予防婦人団体・結核予防会東海北陸各県支部
平成26年11月28日(金) 11時30分まで	
会場・ホテルアソシア静岡	共催 公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
	日本ビーシージー製造株式会社
	後援 公益財団法人結核予防会

【研修内容】

27日 (1日目)	講演①『BCG接種—子供の結核予防の決め手—』	講師:公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨 氏
	講演②『予防接種の必要性』	講師:兵庫医科大学 小児科学 教授 服部益治 氏
	講演③『グローバルマザー—子宮頸がんと闘う女性たち』	講師:認定NPO法人 オレンジティ 理事長 河村裕美 氏

28日
(2日目) 視察 日本平～国宝 久能山東照宮

平成26年11月27日・28日の両日に渡り、『東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会』を静岡県にて開催いたしました。東海北陸地区(愛知県・岐阜県・三重県・福井県・富山県・石川県)各県また、静岡県結核予防婦人会各支部より、多数のご参加を賜り、盛会裏に終了することができました。

講演会では、BCG・ワクチンなどの予防接種に関するお話と近年増加傾向にある子宮頸がんのお話を伺いました。

普段の生活の中で、『結核』を感じることは決して多くない現代ですが、BCGのように、実際の体験や聞きなれた言葉を使い、一般に広く『結核』を普及啓発することは大切と感じました。また、『ワクチン』により防ぐことのできる病気が多種あり、子どもたちが防げたであろう病気に苦しむことがなくなるように働きかけることの重要性、ご自身が子宮頸がんを体験され、同じ体験で苦しむ女性がなくなるよう精力的にご活躍をなされているお話を伺い、そのパワフルさや強さに胸を打たれました。それぞれの講演を通して、活動主体である私たち婦人会会員が、社会に貢献していくため、健康で幸せな毎日を送ること、家族・周囲の方々の健康にアプローチしていくことの尊さを改めて感じました。

何かと、人間関係が希薄になりつつある昨今ではありますが、そのような中、志を共にする方々と交流をもてるこのような機会は、たいへん貴重であると感じました。今後とも、『結核予防』の活動を絶やすことなく続けていく糧にしていきたいと思っております。

婦人会事務局 近藤みのり

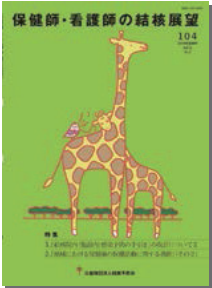


結核予防会の本



結核を中心とする疾病の予防に関する正しい知識を広く県民の方に普及するために、公益財団法人結核予防会が編集・出版している専門書やパンフレットなどの案内をしております。

★好評発売中



結核に関する新情報！ 日々の業務に欠くことができない雑誌 「保健師・看護師の結核展望 104号」

特集1「結核院内(施設内)感染対策の手引き」の改訂についてII

特集2「地域における保健師活動に関する指針」(その2)

トピックスでは、「40年ぶりの結核新薬『デラマニド』とその使用について」を取り上げ、業務ではMDR患者さんから学ぶというテーマで「今だから言えるあのときの思い」を掲載しております。さらに厚生労働省元看護課長の野村陽子先生のインタビューなど盛りだくさんの内容になっておりますので、是非ご購入ください。

B5判 定価 2,052円(税込)

医療基準や最新のデータを更新しました！

★ 平成27年改訂版 ★

研修会など資料におすすめてです！



4月10日発行

結核?! でも心配しないで

定価 248円(税込)

ISBN978-4-8751-299-9



4月5日発行

沖田くんの タイムスリップ

定価 972円(税込)

ISBN978-4-8751-298-2

書籍の注文および出版案内をご希望の方は、公益財団法人静岡県結核予防会までお問合せ下さい。

TEL:054-261-2512 FAX:054-261-9474

HPでは最新情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

HP:<http://www.jatahq.org>



平成26年度実績報告 1,395万円

複十字シール募金にご協力ありがとうございます。

複十字シール運動は、複十字シールを媒体とした募金活動です。

目的は、結核・肺がんCOPD(慢性閉塞性肺疾患)などの呼吸器疾患をなくし、健康で明るい社会を作ることです。皆様のあたたかい善意にささえられ大きな実績を得ることができました。心から感謝申し上げますとともに、今後も変わらないご協力をお願いいたします。

募金協力者御芳名(敬省略・順不同です)

三晃建設株式会社・有限会社二の岡フーズ・郡定寺・洞泉院・株式会社大澤武商店・大石純正・一般社団法人庵原医師会・蓮生寺・菅ヶ谷内科医院菅ヶ谷純弘・静居寺・普賢院・飯島誠之・佐野吉秀・海長寺・成因寺・大江院・阿部忠行・有限会社多々良新聞店・天理教本誓分教会・感應寺・柳原社会保険労務士事務所・コーチ株式会社・レジャー医院・東海浜松会計事務所・医療法人社団家山鈴木医院・有限会社黒柳・小野寺恭敬・龍雲寺・株式会社山益衛生・株式会社佐野・株式会社ニッシン・土屋貞代・西琳寺・甘露寺・秋葉総本殿可睡齋・静岡浅間神社・元長寺・岡本内科医院・久林寺・盤石寺・武藤滋・遠藤勝男・芝田工業株式会社・観音寺・二宮文乃・八木康彦・伊東隼次郎・株式会社テラモト機工・医療法人社団愛育会・有限会社丸誠石材

※ 多数の方々より善意をいただきありがとうございました。大変恐縮ですが、多額の方のみの記載とさせていただきます。

平成26年度複十字シール原画



安野光雅先生による14回目のデザインで、今回は「楽しい世界」がテーマとなっています。日本のどこにでもある懐かしい里山の営みをテーマに描かれています。

今年度も皆様のお手元からこのシールを世界中に広めていただきますようご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

題字:田中隆(元当会職員) 表紙撮影:村木弘知(元県職員)